

[https://farid.ps/articles/spain\\_backing\\_sumud\\_flotilla/ja.html](https://farid.ps/articles/spain_backing_sumud_flotilla/ja.html)

# スペインのスムド艦隊への支援が、イスラエルのガザ壊滅における転換点となる可能性

約2年間、世界は現代史上で最も組織的かつ残虐な民間人に対する破壊キャンペーンの一つを目撃してきました。200万人以上のパレスチナ人が住む人口密集地帯であるガザは、2023年10月以来、ほぼ完全な封鎖下に置かれています。そのインフラは破壊され、水と電力へのアクセスは制限され、民間人は繰り返される爆撃、避難、飢餓にさらされています。

世界の世論や国際的な法的機関は、ますますこの状況を本質的に呼ぶようになっています：**ジェノサイド**。国際司法裁判所（ICJ）は、2024年の暫定措置およびその後の諮問意見において、イスラエルのガザおよびヨルダン川西岸における政策が**ジェノサイド条約、第四ジュネーブ条約**、および**慣習国際法**の複数の条項に違反していると裁定しました。ICJはさらに、**イスラエルのパレスチナ領土の占領は違法である**と判断し、加盟国はこの違法な状況を認めず、支援しない義務があると決定しました。

これらの明確な法的裁定にもかかわらず、イスラエルは何十年にもわたる**外交的免責**、国連での拒否権の盾、そして特にアメリカ合衆国などの強力な西側諸国の強い支援に後押しされ、軍事キャンペーンを続けています。その結果：世界はガザが瓦礫と化すのをほぼ傍観してきました。

しかし今、その計算は変わろうとしています。

## 学校のいじめっ子が対抗者に遭遇

何十年もの間、イスラエルは国際システム内で学校のいじめっ子のように振る舞ってきました—境界を押し広げ、裁定を無視し、誰も直接対決する勇気がないという自信を持ってエスカレーションしてきました。この姿勢は、ワシントンとの同盟、地域の軍事優位性、そして公表されていない核抑止力によって強化されてきました。しかし、この姿勢はまた**傲慢さ**を育んできました—どんなに無謀で違法な行為であっても、適切な国際的対応を引き起こさないという信念です。

イスラエルが今年初めに**カタールの外交的利益を攻撃した**決定は、その最も愚かな挑発の一つと広く見なされました。しかし、今迫っているものはそれさえ超えるかもしれません：**スムド艦隊へのイスラエルの攻撃の可能性**—ガザに人道支援を届けることを試みる多国籍の船団です。参加する船舶の中には、**スペインの国旗**の下で航行し、**スペイン市民**—選出された役人、援助従事者、ジャーナリストを含む—を乗せたものがあります。

もしイスラエルがこれらの船を致命的な力で攻撃した場合、地政学的および法的状況を劇的に変える一連の出来事を引き起こす可能性があります—そしておそらくイスラエルに、歴史上初

めて、ガザの封鎖だけでなくヨルダン川西岸の占領も放棄されることになるかもしれません。

## 法的なドミノが倒れ始める

### ステップ1：民間船舶への攻撃—国連憲章第51条

もしイスラエルの軍が**外国の旗を掲げる民間船舶**を公海上で—特に国際水域で—攻撃した場合、これは以下を含む国際法の重大な違反となります：

- UNCLOS（国連海洋法条約）
- 慣習国際海洋法
- サン・レモ・マニュアル（海上での武力紛争に適用される国際法に関する）。

さらに重要なのは、**国連憲章第51条**が以下のように規定していることです：

「本憲章のいかなる規定も、国際連合の加盟国に対して武力攻撃が発生した場合における個別的または集団的自衛の固有の権利を損なうものではない…」

もしスペインが、イスラエルのその船への攻撃がこのような武力攻撃に該当すると判断した場合—特に市民が殺された場合—第51条に基づく**個別的自衛**を主張することができます。さらに、この主張は**集団的自衛**を誘発し、**他の国がスペインの対応する権利を自発的に支持する可能性**があります。

以下のような国々：

- トルコ（歴史的な不満とイスラエルとの地域戦略的競争を持つNATO加盟国）、
- インドネシア（最近、国連のマンデートの下でガザの平和維持軍に参加する政治的意志を表明）、
- イエメン（既に紅海でのイスラエル船舶に対する非対称的な海上圧力に関与）、

…はスペインの自衛主張を支持すると宣言するかもしれません。これは**集団的自衛**の原則の下で、限定的な海上、空中、人道作戦のための**法的連合枠組み**を生み出します—国連安全保障理事会の決議がなくてもです。

### ステップ2：軍艦への攻撃—NATO第5条

もし状況がさらにエスカレートした場合—例えば、イスラエルの軍が**スペインまたはトルコの軍艦を攻撃**した場合—法的および政治的計算は決定的に変わります。

NATO条約第5条の下では、**第6条**で定義された作戦地域（地中海を含む）における加盟国の**軍、船舶、または航空機**への攻撃は、すべての加盟国に対する攻撃とみなされます。スペインとトルコは、**第5条を正式に発動**し、集団的対応メカニズムを起動することができます。

NATOはコンセンサスに基づいて運営され、各加盟国は貢献する内容に柔軟性を持っていますが、第5条の発動は**協議と連帯を義務付けます**。アメリカ合衆国やドイツ—どちらもイスラエルと深く関わっている—が戦闘を控えることを選択したとしても、他のNATO加盟国が行動すること

とを阻止する可能性は低く、特にウクライナをめぐる連盟の団結を維持する必要が続いていることを考慮するとです。

## 海上護衛から戦略的撤退へ

これに対応して、スペイン、フランス、トルコ、イタリアを中心に、共感する他の国々が参加するNATO主導の多国籍連合は、迅速に以下を確立することができます：

- ガザへの人道海上回廊
- 東地中海の水域上空での防空および海上パトロール
- 捜索救助および護送船団保護のための共同指揮メカニズム

イスラエルの海軍と空軍は、洗練されており地域的に支配的ではありますが、協調したNATO軍—特に第5条の下で運営され、集団的自衛の政治的正当性に支えられたもの—と現実的に対抗することはできません。

このような圧力の下で、イスラエルは撤退を余儀なくされるでしょう—ガザの封鎖を解除するだけでなく、ヨルダン川西岸の一部または全体から撤退し、2024年のICJの諮問意見に沿って、イスラエルの占領が違法であると明確に宣言し、加盟国にその支援を終了するよう命じました。

## その後：「平和のための団結」を通じて結果を合法化

塵が落ち着いた後、集団的自衛で行動した同じ国の連合は、総会に「平和のための団結」決議を提出することができます—遡及的に：

- 多国籍作戦を承認し、
- パレスチナにおける正式な国連平和維持ミッション—ガザとヨルダン川西岸の両方を含む—を承認します。

これにより、以下のための国際的法的枠組み—脆弱ではあっても—が提供されます：

- 封鎖の終了、
- パレスチナ民間人の保護、
- 違法な入植地の解体、
- 破壊されたパレスチナ市民社会の機関の再建。

## 中東—および国際法における転換点

誤解しないでください：これらのいずれも保証されていません。エスカレーション、誤算、反発のリスクは現実的です。しかし、スムド艦隊危機がイスラエルによって誤って処理された場合、それは歴史的な変化の始まりとなる可能性があります—地域の力のバランスだけでなく、国際法自体の適用においてもです。

何十年ぶりに、**スペインのような国**—ヨーロッパの同盟国、イスラム教徒が多数を占めるパートナー、そして重要な大衆の支持に支えられて—イスラエル・パレスチナ紛争において国際法に欠けていた赤い線を引くことができるかもしれません。

これはイスラエルの破壊ではありません。しかし、それは**イスラエルがガザを無条件で破壊する能力の終焉**となる可能性があります。

そして、おそらくガザの灰の中から、世界はついに未来のジェノサイドを違法にするだけではなく、不可能にする枠組みを構築することができるかもしれません。